



7月1日現在の中山	
世帯数	1,356
人口	3,488
【問い合わせ】 中山公民館報編集委員会 58-5822	

中山の未来を考える

路線バス中山線廃止

今年の2月、正副町会長会

の場で28年9月末をもって中山線のバス路線を廃止したい旨がアルピコ交通から申し入れられました。

全アンケート実施

し、大型バスとジャンボタクシーを使い分けて運行しているそうです。

中山線の運営が維持できない

○維持に必要な乗車密度
12 ~ 15 人 / km

○H 27 中山線の状況
3.07 人 / km



説明会を受けて、中山地区の今後のバスの運用について検討する専門委員会が立ち上がり、そこで、バス存続についてのアンケートを行うことが決定し、6月に全戸を対象に実施されました。

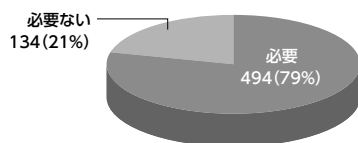
3月には、地区住民に向けての説明会が行われ、改めて既存の中山線運行の継続はできない旨説明されました。そこで、市都市交通課から提案されたのが、市の補助制度を利用した地域主導型公共交通(※)です。既に地域主導で取り組んでいる波田地区では、タクシー事業者に業務を委託

【アンケート結果(一部抜粋)】

回答率 59.8%
回答数 639 世帯

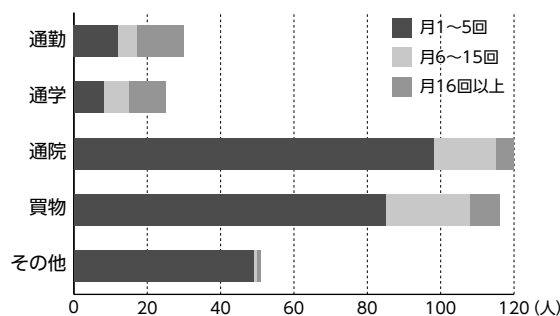
●中山線に替わるバスが必要か?

(回答世帯 628)



●バスを必要としている人の移動目的及び頻度は?

(対象 308 人 複数回答として集計)



バスを維持していく方針に

専門委員会ではアンケート結果を受けて、「地区でバスを維持していく方針」としました。どのような仕組みで運行するか、どのような規模の車両で運行するか、どの路線で運行するかといった細部については、アンケートの結果に重点を置きながら、専門委員会で練りあげていく予定です。

市民満足度調査などのアンケートでは通常40%前後の回答率であることが多いですが、今回のアンケート回答率からは、バス問題について多くの方が強い関心を持っていることがうかがえました。今回の問題

※地域主導型公共交通

公共交通の利用に課題のある地域住民が主体となってバス運行を検討する取り組みに対して市が積極的に支援するもの。各地区のニーズによりエリアを決め、よりきめ細かな車両運行ができるようになる。

太陽光発電設置説明会を受けて

埴原北町会地籍への太陽光発電設置計画説明会が、6月6日、中山公民館において実施されました。計画によると、設置場所は鎌田池に隣接する空き地で、すでに一期工事分の設備が稼働している所に同程度規模の設備を増設するというものです。

説明会には、町会長始め、設置場所近隣の方々が出席し説明に耳を傾けていました。近年の環境問題やエコ意識の高まりなどにより急速に普及してきた太陽光発電ですが、普及に伴い地元住民とトラブル

をきっかけに、地域で一体となり、様々な地域の問題に目を向け、考え、解決に向けて取り組んでいきたいものです。

ルになるケースも増えてきているようです。現に中山でも、本年3月、和泉町会地籍において新規設置計画の説明会がありました。設置場所は、土砂災害発生危機の高い地域とされており、また豊かな自然を破壊するなどとして、「中山地区太陽光発電所設置反対の会」が結成され、現在も反対活動を継続しています。

説明会を受けて、町会長の宮島治美さんは、「今回の増設については、危惧していた放射光、雨水処理等についてそれぞれ対策がなされており、設置について特に問題はないと考えている。しかし、中山は今後ますます遊休荒地が増えていき、それに伴って安易な設置が増えていくのではないかと心配している。農業委員会等関係組織と連携し遊休荒地の減少を図ることも必要ではないか。」と話していました。

このように太陽光発電は、必要なエネルギーではあるものの、しっかりと対策がなされないまま設置が進むと大きな災害の発生に繋がることがあり得るということとを、私たち一人ひとりが関心を持つことが必要ではないでしょうか。

最終回 小松 芳郎

中山の今昔 ⑥

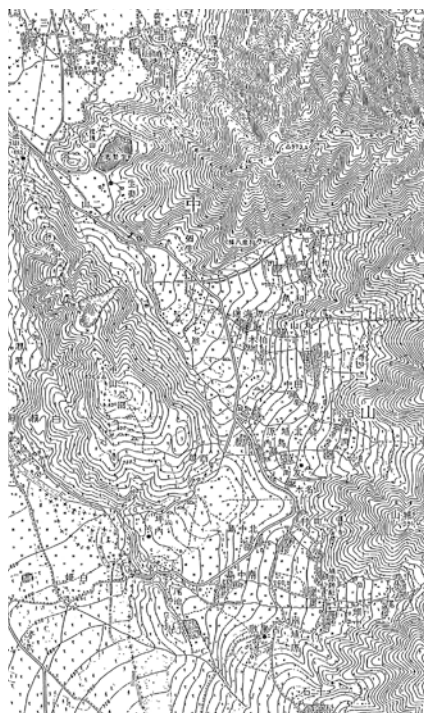
中山地区の戸数と

人口の推移

選挙では、選挙人名簿登録者は2228人、投票した者は173人、投票率76%でした。大正10年の中山村は、稲作農家戸数449戸、養蚕戸数422戸でした。

明治7年(1874)10月23日、埴原・和泉・神田の3か村が合併して中山村となりました。2年後の中山村の世帯数は529戸、人口は2366人でした。明治31年は525戸、2986人、38年は559戸、3259人です。大正期になっても、世帯数は570戸から590戸、人口は3300人から2990人の間でした。

大正4年(1915)3月25日の衆議院議員選挙では、中山村の有権者は126人で、村戸数の22%ほどでした。9月27日実施の県会議員



地図(昭和10年当時の中山)
詳細をご覧になりたい方は文書館まで

活断層と

共に生きる

約12万年前以後くりかえし活動し、将来も活動することが推定される断層を活断層と言います。中山には全国的に有名な牛伏寺断層があり、その活動周期からいつ動いてもおかしくないと言われています。信州大学教授大塚勉氏によると、「牛伏寺断層だけなら2011年6月のM5.4地震位だろう。M7クラスは周辺の複数の断層が同時に動いた

に701戸(2820人)、平成元年(1989)に850戸(人口は3134人で、この年から3000人を超えます)、2年が935戸(3406人)、そして3年に1059戸(3761人)となつて、世帯数が1000戸を超えます。

明治9年から96年間は世帯数500台だったのが、平成期になって倍近くに増えたのは、棚峯の団地ができたためです。

平成28年4月1日現在の中山地区の世帯数は1348戸、人口は3498人です。町会別の世帯数は、和泉393戸・埴原北241戸・埴原西113戸・埴原東88戸・埴原南98戸・棚峯415戸です。



露頭した牛伏寺断層(大塚勉氏)
場所:中山霊園駐車場から西へ斜面を下った沢筋

ら考えられる」「私達の住む松本平は活断層が作ったのではなか」「中山台は約10万年位前に何度かの断層活動により縦と横にズレて出来たのではないか」とのことです。

活断層が作った地で生活している私達は間違いなく活断層と共に生きています。自分の生きていく時代にかかるかどうかは別にしても活断層がある限り地震は起こります。地震から目をそらさないで対策をとっておくことが大切です。2011年の地震では、震央から離れていた地域でも大きな被害が発生しました。これは地盤の脆弱によるものです。松本市公式ホームページには避難場所や防災マップ、揺れやすさマップなど多くの情報が記載されています。日頃から必要な情報を集めておき、自分の身を守り、家族の身を守り、地域を守りましょう。

7月3日(日)開催
平成28年度 中山地区
町会対抗体育大会競技結果

●軟式野球

優勝 埴原南 準優勝 和泉

●ソフトバレー

優勝 埴原北 準優勝 和泉

●卓球

優勝 埴原東 準優勝 和泉

●ゲートボール

優勝 埴原北 準優勝 埴原北A

●マレットゴルフ

優勝 和泉 準優勝 埴原南



5月の終わり小学5年の孫が右手の肘を壁に打ち、手術をすることになりました。

午前中誰にも言わず痛いのを我慢していたのでしょうか。

午後になり「肘が腫れているよ」の一言で先生が知り、病院に行く入院、手術。祖母は「頑張つて」としか言えませんが、中山小学校の高木校長先生は、「手術が終わるまで居ても良いですか?」とおっしゃり、数時間生徒のために親身になって見守ってくださいまして感謝しました。

(M・T)